

4-1-6-5 形成外科

1. 概要

1.1 形成外科の目標

形成外科は、体表とそれに近い組織の先天性・後天性欠損の形態的・機能的再建を行い、患者の社会復帰を助ける外科の一分野である。

当院形成外科の一般目標として、患児の身体的・精神発達を考慮した治療を行うこと、非侵襲的治療を推進すること、そして標準的治療体系が無い疾患について上記の基準に従った体系の確立を推進することとしている。

特に重点をおいている疾患群としては、小耳症を含む耳介先天異常、唇顎口蓋裂、頭蓋縫合早期癒合症、第1第2鰓弓症候群などの頭蓋顎顔面異常、Vascular anomaly のなかでもリンパ管腫などである。これらについて、院内外の専門科とチーム医療を行い標準的治療体系の確立を推進することを目標としている。

1.2 スタッフの構成

当院における専門診療科の1単位である、医長・医員・レジデント各1名からなる。

医長：金子 剛（慶応義塾大学1981年卒）：主な研修歴は形成外科、脳神経外科、頭頸部外科、外科、麻酔科である。平成元年から1年間米国ワシントン大学形成外科、セントルイス小児病院 Cleft Palate and Craniofacial Deformities Institute にて clinical research fellow、その後慶応義塾大学医学部形成外科学専任講師を経て平成14年3月1日当院医長に就任、現在に至る。主な関心領域は唇顎口蓋裂、耳介先天異常、頭蓋顎顔面外科、マイクロサージャリーである。

医員：大原博敏（杏林大学1999年卒）2006年6月より、慶應義塾大学大学院生でもあり診療と研究に従事している。主な関心領域は小児形成外科、頭蓋顎顔面外科、マイクロサージャリー。

レジデント：2007年6月より内川由美子（千葉大2004年卒）、主な関心領域は小児形成外科。

2. 臨床実績

2.1 外来

形成外科外来：月、水、金曜午前中 3H-6 にて行っている。初診の多くは second opinion であるため原則として金子医長が担当している。

口蓋裂チーム外来：第4金曜日午後に、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、歯科と共同で 3H-1 にて行っている。2002年6月より開始した、鼻咽喉ファイバーにより鼻咽腔閉鎖不全の診断を行っている。口蓋裂患者だけでなく先天性鼻咽腔閉鎖不全症患者が増加傾向にある。

当院の常勤の言語聴覚士（2名）だけでなく、慶應義塾大学病院を含め多くの施設から参加していただいている。

セカンドオピニオン外来：2006年12月より、小耳症、頭蓋縫合早期癒合症についてセカンドオピニオン外来を開始した。成育医療センターらしくチーム医療を強調して、形成外科単独でなく、小耳症については耳鼻咽喉科と、頭蓋縫合早期癒合症については脳神経外科と協同で行うことで特色をだしている。料金は30分1万円の設定である。これまでのところ頭蓋縫合早期癒合症について実施した。これらの外来一患者数は別稿の医事統計を参照されたい。

2.2 手術

月曜午後、火曜、木曜の午前午後に手術を行っている。月曜午後には原則として当日入院で全麻下による小手術を行っている。

手術件数の総数は271件（目帰り全麻及び局麻13件を含む）であった。手術件数の内訳（以下日本形成外科学会の分類）は、新鮮熱傷1、顔面損傷（骨折）2、口唇裂・口蓋裂関連67（唇裂初回手術25、口蓋裂初回手術22、咽頭形成術4など）、手足の先天異常20、その他の先天異常113（自家肋

軟骨フレームによる小耳症耳介形成術9, 頭蓋形成術19件(脳神経外科と協同手術)など, 母斑・血管腫・良性腫瘍39, 悪性腫瘍およびそれに関連する再建2, 癍痕・癍痕拘縮・ケロイド6, その他(抜糸, 創傷処理など)21 計271件であった. またマイクロサージャリーによる遊離複合組織移植術は4件であった.

3. 教育活動

3.1 施設認定

国立小児病院より継続して(社)日本形成外科学会の教育関連施設(2003年2月)に認定されていたが, 2007年4月1日より認定施設(小児病院)となった. 当院での形成外科研修は2年間まで形成外科学会専門医資格に必要な研修年限に組み入れることが出来る.

3.2 院外教育活動

金子医長は慶應義塾大学医学部形成外科客員准教授として, 第4土曜日の小耳症外来にて診療指導と年1回の講義「耳介とその他の先天異常」を担当している. また, 慶應義塾大学看護医療学部においても非常勤講師として「先端医療(マイクロサージャリー)」を担当している. また, 日本福祉専門学校言語聴覚療法学科においても非常勤講師として年1回「口蓋裂」と「鼻咽腔閉鎖不全」の講義を担当している.

3.3 学会活動

金子医長は現在社会保険委員会委員長として, 形成外科関係の保険診療の改善, 是正のための活動を行っている. 日本形成外科学会では専門医認定委員会委員, データベース委員会委員を兼務している. その他日本頭蓋顎顔面外科学会評議員, 学術委員, 日本マイクロサージャリー学会評議員などを務めている. また本年度に新たに設立された日本創傷外科学会の理事に就任した.

また, 公職関係としては日本医師会疑義解釈委員会, 厚生労働省高度医療評価会議, 先進医療専門家会議, 医療材料専門組織などの委員を務めている.